

「種山ヶ原は今②4」

「種山ヶ原」 作詞 宮沢賢治 作曲 ドボルザーク

春はまだきの朱雲を	めぐる 繞る八谷に ^{へきれき} <u>霹靂</u> の
アルペン農の汗に流し	<u>いしぶみ</u> しげきおのづから
縄と菩提樹皮 <small>まだか</small> にうちよそひ	種山ヶ原に燃ゆる火の
風とひかりにちかひせり	なかばは雲に鎖 <small>とど</small> さるゝ
四月は風のかぐはしく	四月は風のかぐはしく
雲かげ原を超えくれば	雪かげ原を超えくれば
雪融けの草をわたる	雪融けの草をわたる

ドボルザーク作曲「新世界」の曲に上記の詩「種山ヶ原」をのせて、生徒に教えていたそうです。一般的に歌われているよくキャンプファイヤーで歌われる「遠き山に陽は落ちて」は昭和24年に「家路」を翻訳したものだ。

詩「種山ヶ原」に「霹靂のいしぶみ」とあります。

「霹靂のいしぶみ」とは、雷神様(農業の神様)の石碑のことらしい。

雷神は雷鳴や稲妻を神格化したもので「農業神」として信仰され、作物にとって大切な雷を鳴らし、雨を降らせる水神とも言われても言われている。雲と雨と雷は、豊作のための不可欠な要素です。なぜなら、雲が雨を降らせ、雷は空気中の窒素を分解し、雨がその窒素を地中に溶かし込む。窒素は作物の重要な栄養分です。

【雷神の話】「雷神」は元々天候を崩す悪い神でしたが、千手観音に仕える二十八部衆に成敗され、「仏教の守護神となり、大衆を救います」と誓い、二十八人部衆の家来になりました。それ以降姿は、鬼の姿をして、虎の皮のふんどしをしめ、輪形に連ねた太鼓を負い、手にばちを持っています。いかずちの神、なる神とも言われています。

米里には十五基 最古のものは「己雷神」寛政十年(1798)立石

昔話 子供の頃、小正月行事に五穀豊穰祈願として、水木に色のついた団子をつけて飾ったものでした。赤くきれいで、全体が整って、水揚げの良いからでしょう。小正月が終わると、何処の家でもその赤い水木を竈の近くに保存しておいたものです。

何故かというとは雷に効くと言われているからです。雷が近づくと、お爺さんに「水木を竈で燃やせ」と言われたものでした。雷が怖いものだから言われるままに、竈に水木を入れて燃やしたものです。効き目は覚えていません。

【付記】 神社のしめ縄と雷のお話

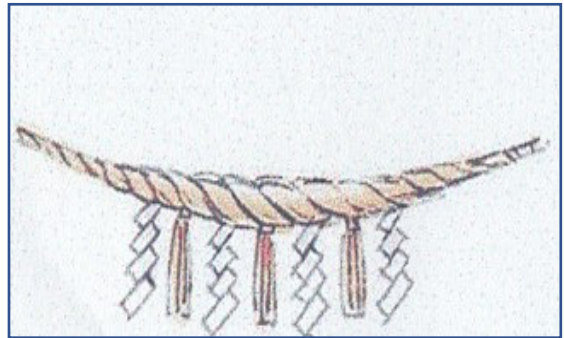
しめ縄が神社に奉納されるのは「豊かな実りを祈るため」。

太いしめ縄そのものは ⇒ 雲

細く下がっている藁 ⇒ 雨

ぎざぎざの紙（紙垂） ⇒ 雷

を表しています。



宮沢賢治の「高原」は四行詩？ 五行詩？

賢治作品「高原」は賢治が2度目に種山ヶ原を訪れた大正11年の作品と思われます。教え子の手記より

「高原」

海だべがどおら思たれば
やっぱり光る山だったじゃい
ホウ
(ホウ)髪毛風吹けば
鹿踊りだじゃい



北上山地は隆起でできた高原です。従ってかつては海の底でした。このことから初めの言葉が出たと言う人もいますが、どうなのでしょう。この土地の老人の中には「昔は海が見えたんだ」という人もいましたが？ 麓には昭和期まで「鹿踊り」を踊る人たちがいましたが、今は「兄和田念仏剣舞」と大内沢の「跳人剣舞」だけになってしまいました。

宮沢賢治作品「高原」の詩碑は、どこに建てればいいのでしょうか？

「野辺のいしぶみ」①

【はじめに】

念仏剣舞で有名な兄和田に行く県道がある。その途中からから 300 mほどの崖の下に土に埋れた 30 cm程の小さな墓石みたいものがあった。実は昔旅人の道標となった追分石である。それを知る人はほとんどいない。昔の旅人にとって旅を続ける大切な石だったのです。

今、山の木を伐る時、搬出用の道を機械で簡単に作ってしまう。今の時代当然のことかもしれない。しかし、そのようにして盛街道が寸断され、追分石もそのあおりで土に埋れてしまっていたのだ。こうして昔の文化が消されていくのです。昔の所にある石碑は少なく、道路工事等で少しずつ移築されています。それでも先人たちはやはり神様仏様として大切に保存してくれたのです。私たちも守らねば。

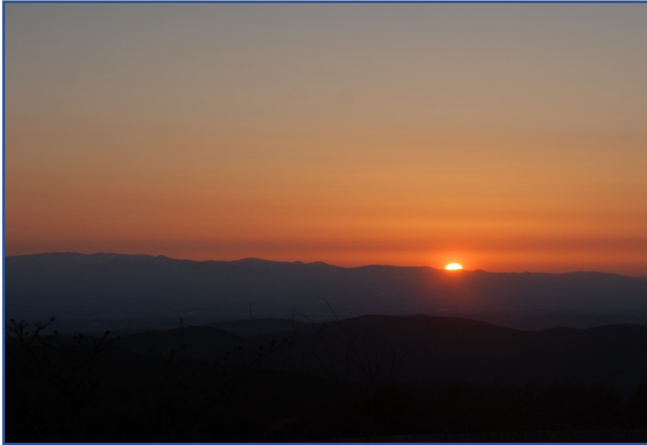
1、ドヴォルザーク「新世界から」

宮沢賢治の「種山ヶ原」という詩がある。その詩をドヴォルザークの「新世界から」の曲にその詩を添え、賢治は生徒たちに教えていたらしい。教え子たちもその歌を覚えていて、それぞれの手記に書いている。因みに私たちがよくキャンプで歌う歌「遠き山に陽は落ちて」は戦後「旅路・Going Home」として渡ってきた歌を堀内敬三氏が翻訳したものです。その二十年も前にすでに歌っていたというのではないか。素晴らしいことである。

その詩の中に「霹靂のいしぶみ」というフレーズがある。「雷神の石碑」のことである。さすがに農学校の教師だ。「雷神」は農業の神

様である。雷が鳴り、その時の放電で窒素が放出され、雨がその窒素を大地に落とす。そのことによって肥沃な大地が生まれる。と同時に、雷神は雨を降らせる水神でもある。農村の米里には、十五基もある

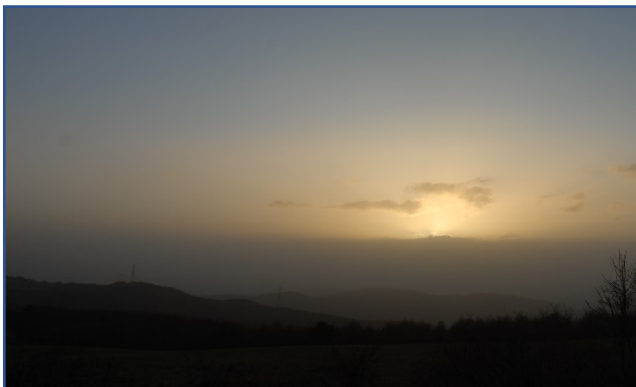
種山からの夕陽 奥羽山脈に沈む



4月2日の早池峰山



黄砂の時の奥羽山脈 4・12



早春の大森山と物見山

早春の大森山と物見山

概ね雪は消えたが、陰にはまだ残っている。

4月1日の夕方の大森山と物見山

